

【授業科目】健康社会要因論 Social Determinants of Health

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
田中 武士	1年次後期	必修	2	30	講義			可	
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要／私たちが生きる社会は個人の健康に大きな影響を与えています。「所得の格差」が「命の格差」にもつながる健康格差の実態、健康格差発生メカニズムの構造、健康格差への対策について社会的公正の視点から概説します。また、将来、医療者等として働くために必要な「聴く」「まとめる」「伝える」「考える」力を育むために視聴覚教材や新聞記事を用い実例を交えながら授業を進めます。健康とは何か、人権が保障される社会はいかにあるべきかについて考え対話し、小レポート作成などの個人ワーク等も取り入れながら考察を深めていきます。</p> <p>課題に対するフィードバック方法／提出された課題等については全体の総評コメントを授業時間内に公開します。</p>								
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。</p>								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 健康と社会の関係について広い視野から理解することができる。 ② 自分が特に興味のあるテーマについて文献などから情報収集を行い、自身の考えを深め、表現することができる。 ③ 現代社会における人々の暮らしの実態から健康に関係する社会のあり方について考えることができる。</p>								
時間外学習に必要な内容・時間	<p>・下記の授業計画を参考に教科書を事前に読み(30分程度)、わからない用語などは適宜調べておく授業内容が理解しやすい。 ・日頃から興味ある新聞記事や文献等に目を通し社会情勢について触れておく授業の理解に役立つ。 ・定期試験は授業内容をもとに筆記試験を行う。教科書や講義の際の配布資料をしっかりと読んで理解しておくこと。下欄の参考書等も学習に用いるとさらに理解が深めることができる。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>								
授業計画	<p>第1回 イントロダクション 第2回 健康と格差 第3回 健康の社会的決定要因 第4回 ヘルス・アドボケートとしての医療者 第5回 日本における健康格差の現状と課題 第6回 健康格差と社会的処方 第7回 社会的処方の可能性 第8回 健康格差に対する学会・団体の活動 第9回 地域から学ぶ 第10回 社会的バイタルサインとは何か 第11回 子どもの貧困について考える 第12回 住民主体の活動と専門職 第13回 薬物依存症からの回復について考える 第14回 地域づくりと居場所について考える 第15回 まとめ(社会的公正)</p> <p>※受講生の学習状況を見ながら適宜内容を変更することがある。</p>							全て田中	
評価方法 評価基準	<p>授業への参加姿勢30%、小レポート30%(毎授業後)、定期試験40%で総合的に評価する。</p>								
教科書	<p>武田裕子編(2021)『格差時代の医療と社会的処方―病院の入り口に立てない人々を支えるSDH(健康の社会的決定要因)の視点―』日本看護協会出版会。</p>	参考書等	<p>・栗林寛之監訳、マイケル・マーモット(2017)『健康格差―不平等な世界への挑戦』日本評論社。 ・近藤克則(2022)『健康格差社会 第2版―何が心と健康を蝕むのか―』医学書院。 ・近藤克則(2017)『健康格差社会への処方箋』医学書院。 ・イチロー・カワチ(2013)『命の格差は止められるか』小学館。 ・NHKスペシャル取材班(2017)『健康格差―あなたの寿命は社会が決める―』講談社。</p>						
学生への助言等	<p>健康管理は自己責任だと言われがちです。しかしそれは本当なのでしょうか。健康のありようは個人の力だけではどうすることもできない社会のさまざまな要因によって影響を受けています。そしてそれは命の格差を生むことさえあります。医療者としてこの事実を無視することはできません。この講義を通じて広い視野と関心を持ち、人々の命と健康、そして私たちが生きる社会のあり方について考えていきましょう。なお、「社会医療福祉論」と合わせて受講するとより理解が深まると思います。</p> <p>※ 私語など授業を妨げる言動は厳禁です。単位取得は容易でないので受講登録にあたっては十分留意してください。授業内での対話を重視するため、主体的な姿勢での授業参加を求めます。</p>								